

会 議 録

1 会議名

令和4年度第1回上越市青少年健全育成センター運営協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 報告

- ・令和3年度事業・活動報告（公開）
- ・令和3年度若者育成支援結果報告（公開）
- ・その他（公開）

(2) 協議

- ・令和4年度運営方針と活動計画（公開）
- ・令和4年度若者育成支援計画（公開）
- ・センターの運営に関する意見交換（公開）

3 開催日時

令和4年6月10日（金）午後1時30分から3時30分まで

4 開催場所

上越市教育プラザ 研修棟大会議室

5 傍聴人の数

1名

6 非公開の理由

なし

7 出席した者 氏名（敬称略）

- ・委員：石黒和仁、山田稔、阿部愼、市川直行、山本克志、阿部利夫、小林榮
竹内恵市、本間久美子、鈴木真理子、吉岡智宣
- ・事務局：上越市青少年健全育成センター 所長 曾我茂樹
指導員 池田隆、指導員 山崎美和子、事務員 佐藤政弘

8 発言の内容

《議 事》

(1) 報告

- ・報告①：令和3年度事業・活動報告（公開）
事務局より説明（あゆみ P4～P14）
- ・質疑 なし
- ・報告②：令和3年度若者育成支援結果報告（公開）
事務局より説明（あゆみ P8～P9）
- ・質疑

本間委員：何年か前に青少年健全育成委員の研修で新潟市若者支援センター「オール」を訪問した。そこを利用していた子どもが「こういう所ができて、また出歩けるようになった」と話してくれた。上越にもこういう施設ができるといいなど思っていたが、その後、若者の居場所Fitができた。上越市も若者支援に力を入れてくれてよかった。

山田委員：軽度の発達障害で、高校に進学した若者もいる。将来的に心配な若者が、高校をリタイヤしたとき、Fitで支えていただきたい。人との関わりが苦手な若者をどう支援しているのか。

事務局（曾我所長）：全日制高校をリタイヤし、通信制高校に移った若者を支援したことがあった。その他にも、現在、定時制高校を辞めて家にいた若者が通信制高校に入り直し、Fitに通っていて、学習を支援している。Fit利用者は19歳から29歳が大部分だが、高校を卒業できても、就労が上手くいかず、家にいるケースが多い。Fitが家以外の活動場所となり、就労につながるように支援していきたい。社会に出ていくことができず、Fitを利用している若者はその背景として発達障害の問題を抱えている場合がある。

山田委員：発達障害で人と関われない、社会に出られない若者をトレーニングや支援を行う専門機関につなげてはどうか。

事務局（曾我所長）：就労施設につなげていく場合もあるが、Fitは発達障害に関する専門的なトレーニングをする場ではない。すこやかなくらし包括支援センターとも連携、相談し、若者の支援に当たっている。

小林委員：子どもは日々成長していく。切れ目のない支援が必要である。各団体との連携を紹介してほしい。

事務局（池田指導員）：街頭指導の結果を青少年健全育成センター運営協議会で各委員に伝えていくが、各月の高校生の様子等を翌月当初に阿部委員にメールで伝えていく。阿部委員は、各月の上越地区の高等学校校長会で情報を伝え、生徒指導に活かしていく。

阿部(慎)委員：メールで届いた近々な情報を各校に伝えていきたい。

小林委員：他機関との連携は他にあるか。

事務局（曾我所長）：青少年健全育成委員が記録した日誌を月末に回収しているが、交番に寄って、若者の情報を聞いている。現在、大きな事件は起きていない。こちらから、警察機関の少年サポートセンターに情報を伝えたこともある。

吉岡委員：上越市親の会では、悩みの内容を集計するのを止めたと聞いたが、最近の話題、悩みの傾向はあるか。また、Fit 利用者と上越市親の会はつながりがあるか。

事務局（曾我所長）：悩みの内容としては、不登校、発達障害、起立性調節障害などがあるが、不登校がほとんどである。

事務局（山崎指導員）：小学校低学年で発達障害の問題をかかえていて、医療機関にもかかっている多くの事例がある。親が学校と協力して対応を工夫している。Fit のことを紹介しているが、つながりはない。

事務局（曾我所長）：Fit は対象が義務教育終了後なので、上越市親の会のケースとはなかなかつながらない。

小林委員：問題があるが、見えない部分が多くある。Fit そのものをいいものにするため、悩んでいることはないか。

事務局（曾我所長）：問題をかかえた若者が潜在していて表に出てこない。相談にむすびつかない、利用してもらえないという現状がある。地域包括支援センターが若者のひきこもり支援も始めたので、そこと連携し、Fit につなげていく。一部その関係が出来始めた。

山田委員：関係機関との連携は大切である。どのように、どのくらいあるのか資料があるとよい。

事務局（曾我所長）：まだ始まったところである。これから、しっかりと連携し、報告できるように思う。

(2) 協議

- ・議題①：令和4年度運営方針と活動計画（公開）

事務局より説明（あゆみ P15～P20）

- ・質疑 なし

- ・議題②：令和4年度街頭指導の計画（公開）

事務局より説明（資料1）

- ・質疑

小林委員：改選の件で、人選する団体はどのくらいあるのか。

事務局（曾我所長）：保護司会、更生保護女性会、民生委員・児童委員、町内会など、いろいろな団体から推薦されている。仕事を退職しても再び勤める人が多くなってきた。これまで引き受けてくれる方はいたが、年齢が上の方も仕事をやるケースが多くなってきた。人員確保は厳しく、悩みをかかえている。

小林委員：どうするのか。

事務局（曾我所長）：以前は、88人や130人体制の時もあった。小中学校の先生やPTAの方が育成委員をやっていた時もあった。徐々に人員を減らしてきた。非行が少なくなってきたからである。退職後も仕事で忙しく、育成委員になるのは難しくなった。考えなければいけない時期に来ている。

本間委員：車を使う人が多くなって、街頭指導の際、こんなとこまで歩くのですかという人もいる。

小林会長：街頭指導の在り方を考えなくてはならない。

本間委員：PTA 一日街頭指導では暑い日にスーツ姿で、こんな時に回るのかと言う参加者もいる。

小林会長：青少年健全育成委員は、どのくらいの人が、どの町内から選出されているのか。

事務局（曾我所長）：市街地の小学校区単位で選出されている。選出の仕方はそれぞれの地区のルールで行われている。

小林委員：街頭指導のルートの学区なのか。

事務局（曾我所長）：そこまで絞り込んでいない。町内の中にも、選出は難しいと言われるところもある。逆に多く選出されているところは減らしてきた。

阿部(利夫)委員：73～75 歳まで勤めるようになって、町内会の役員をお願いしても余裕がないと言われる。役員を確保するのは町内会としても難しい。地域での街頭指導は小学校の方々がやっているが、歩かなければならないし、知らない人に話すのは難しく、回数も多いという意見を聞いている。

小林委員：巡回コースの在り方も含めて考えていただきたい。青色パトロールの良い点は何か。

事務局（池田指導員）：育成委員が下校時の子どもたちに声掛けをしている。大人に見守られていて心強いと思う。

本間委員：借りているパトロール車は青色灯が子どもたちからよく見えない。市当局に伝えてほしい

竹内委員：街頭指導をしている時、ゲームセンターで子どもから今日は運動会の代休日ですと言われた。親子連れや子どもを抱いた母親もいる。街頭指導することで社会が見えてくる。北城高校、上越総合技術高校、高田農業高校、関根学園高校などを回って、声掛けすると手を振ってくれる。重要なことである。

事務局（曾我所長）：先ほど説明した育成委員の選出団体に子ども会連絡協議会を追加する。

- ・議題②を承認
- ・議題③：第 72 回社会を明るくする運動（公開）
事務局より説明（資料 2）
- ・質疑 なし
- ・議題③を承認
- ・議題④：令和 4 年度若者育成支援計画（公開）
事務局より説明（資料 3）
- ・質疑

小林委員：令和 3 年度事業報告で若者支援者研修について応募者の数が多くて断ったとのことだったが、今年度はどうするのか。

事務局（曾我所長）：令和 3 年度は応募者を 40 人程度としていたが、令和 4 年度は

50人程度とする。実際は50人程度が申し込んでも、当日は40人程度の参加者になる。今後、新型コロナウイルスの感染状況がどうなるか分からないが、ひとテーブル3人掛けを2人掛けにし、50人を限度として運営する。

・議題④承認

・議題⑤：センター運営に関する意見交換

事務局（曾我所長）：青少年健全育成センターが、どのような役割を果たしていけばよいか意見がほしい。当センターの柱の一つ目は非行防止、二つ目は若者支援である。一つ目の非行防止については一定の成果があるが、子どもの実態が変わってきた。マナー面で声を掛けることはあるが、タバコを吸っているなどの触法少年は見当たらない。スマホを見ながら自転車に乗っているなど安全面での注意は増えた。育成委員が環境整備でゴミを拾っている。今、目に見える非行が少なくなってきた。どういう形で街頭指導を継続していくのがよいか、ご意見をいただきたい。二つ目の若者支援については、若者の居場所Fitを中心に活動していくが、高校を卒業した子どもにどういった支援ができるか、ご意見をいただきたい。

小林委員：非行防止、若者支援の二つの柱があった。街頭指導は長い歴史がある。それぞれの街頭指導に対する思いも変わってきている。何か感じていることはないか。

石黒委員：大町小学校に勤めたとき、育成委員になって街頭指導で歩いた。立体駐車場で高校生に注意したこともあった。その当時も年々子どもに会わなくなってきた。暑い日歩いて子どもに会わなかった日もあった。今の子どもは室内でゲームをして過ごしている。でも、子どもを見守るっていただけるのはありがたい。

山田委員：実のある活動にしたい。立哨で子どもを見守る人がいるのはありがたいと思う。下校時に不審者がいることもあるので、街頭指導をその時間帯に当ててほしい。また、別の活動を行っていくことも考えたい。Fitは上越市に一か所だけなので、知っていても通えない子どもがたくさんいると思う。もっと増やせないだろうか。

阿部(慎)委員：喫煙、金を巻き上げる、暴力などはほとんど見られない。バイクに乗

って有職少年が来ることもない。制服で登校し、行事の時に水で落ちるスプレーで髪を染めることもあるが、落としてから下校している。目に見えて問題となることがない。SNS でのいじめが起こらないように気を付けている。不審者対策として巡回してもらえるとよい。目に見えないことの方が心配である。

小林委員：電子媒体の問題は、各学校で対応していると思う。

市川委員：保護司は定数の 8 割しか決まっていない。育成委員に 8 人選出するところ、6 人しか選出できていない。人を揃えられず、壁にぶつかっている。

山本委員：非行少年は 10 年前の十分の一に減っている。子どもが外で悪さをしなくなっている。育成委員の街頭指導の成果でもある。夜間遊び歩いている子どももいる。子どもがいなければ、活動内容をシフトしてもいいと思う。子どもと一緒にごみ拾いするのもよい。時代と共に活動も変わっていかねばならない。警察も今は SNS のネット教室へシフトしている。SNS の使い方の指導等、できることへシフトしたらどうか。Fit の活動はとてもよいと思う。小中学生は入っていないとのことだが、対象年齢を広げて、早目の指導や親のケアができればいいと思う。

事務局（曾我所長）：義務教育段階は手厚い支援がある。中学を卒業するとやや支援が手薄になるので Fit を始めた。

阿部(利夫)委員：町内会は青少年の段階は対象としていない。小学生が対象となる。学校の育成会が巡回をしているが、夜巡回するのは大変だと聞いている。また、どう声掛けしたらいいか困っているとのことである。

竹内委員：街頭指導の出発は午後 4 時である。私たちが歩く時、子どもは下校している。部活をやっている子どもは巡回より遅くなる。もう少し巡回時間を遅くしたらどうか。高田駅前の少年サポートセンターに寄ったら、相談している子どもがいた。少年サポートセンター職員が駅の立体駐車場を見回っているとのことだった。情報があれば、少年サポートセンターに伝えるようにしたい。私が公園の草取りをしていると、10 時ころにきて、30～40 分ブランコを漕いでいる子どもがいた。学校に行っていないのかなと思った。そういう子どもへの声掛けはどのようにしたらいいのだろうか。上越市安全メールで、子どもへの不審な声掛け事案もあった。街を歩いて子どもを見守ってくれる人が必要である。

鈴木委員：Fit のリーフレットが公共機関に配置されているのを見るが増えた。

若者の生活を考えると、携帯電話で Fit を調べられるとよい。Fit 宛にメールができるようになれば、相談も広がる。5月末までの30日以上の不登校が多い。新たな発生がないようにしたい。小中学校間の連携はよいが、中学校から高校へは細かく情報がつながっていない。特に、グレーゾーンの子どもの情報が伝わっていない。上手くつなげられるとよい。

吉岡委員：街頭指導は問題行動を是正する。異質なものを排除する趣旨があったのかと思う。取り除くのではなく、応援する活動があるとよい。若者が3人いたら、もっと呼んで来いというような活動になるとよい。

小林委員：若者が集まっていると悪いことをしていると思ってしまう。これまでの意見をまとめると、次の点に集約される。一つ目は、街頭指導の在り方についてである。外で見かける子どもが少なくなった。異質なものを排除する方針の是非、パトロールの適切なコースと時期などを検討してほしい。二つ目は多くの人が Fit を活用できる方法である。困っている人をどう拾い上げるか、Fit まで来られない人をどうするか。若者支援に携わっている人から意見を聞いてほしい。

9 問合せ先

上越市青少年健全育成センター TEL：025-544-4690

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。